

アスリートに学ぶビジネス成功への軌跡(第27回)

体操の「白い妖精」ナディア・コマネチのそれから

2020.09.17

1976年に開催されたモントリオールオリンピック(カナダ)の女子体操競技では、旧ソビエト連邦がオリンピック7連覇を達成し、団体金メダルを獲得した。



ただ、世界中の多くの人々に鮮烈な印象を残したのは、大会前にはさほど注目されていなかったルーマニアの選手たちだろう。髪をポニーテールにまとめ、ぴったりとした白いレオタードに身を包んだ小柄なルーマニアの選手たちはあどけない少女のように見えたものだった。

中でも、1人の少女に目を引かれた。当時14歳のナディア・コマネチ選手である。段違い平行棒の規定演技を始めようとしていた彼女の表情に緊張している様子は見受けられない。神に祈ることもなく、母国で見守る家族に思いをはせることもなく、ただ自分が今からすべきことをするというクールな意思が感じられた。彼女は著書で述べている。

「体操では、晴天の霹靂というものはない。バーや跳馬から飛び出したとき、魔法がはたらいて支えてくれるはずもない。人生にもあてはまるが、誰でも「できること」はある。自分ができる技をバッグに入れておき、必要なときそれを引き出していく」
『コマネチ 若きアスリートへの手紙』ナディア・コマネチ著／鈴木淑美訳

オリンピック史上初の10点満点

その言葉どおり、ナディアは練習で繰り返したように、1つひとつの技を求められる通りに決めていき、着地した。得点がスコアボードに表示された。

1.00

その数字の意味が誰一人分からず、会場は静まり返った。ルーマニア体操チームのコーチであるベラ・カロリー氏が気色ばんで審判に尋ねた。スウェーデンの審判が指を10本示して応えた。

10点満点！

当時、10点の表示は想定されておらず、スコアボードに10.00が表示されるようにはプログラムされていなかったのだ。

オリンピック史上初めて10点満点を獲得したこと知った瞬間をナディアもよく覚えている。

「私はめったに感情を出さないのだが、そのときはさすがににつこり笑った」

その後、ナディアはさらに6つの10点満点を出し、個人総合を含む金メダル3個、銀メダル1個、銅メダル1個を獲得。その活躍によってルーマニアは団体銀メダルに輝いた。

1984年に引退。1989年にはアメリカに亡命… 続きを読む